

戦争と平和を考えるきっかけに



日本は、77年前に大きな戦争を経験しましたが、その戦争を体験した人たちは年々少なくなってきました。「昔の人は戦争があって大変だったね」と人ごとのように感じてはいないでしょうか。

博物館では、毎年6～8月に「四日市空襲と戦時下の暮らし」を開催しています。戦争の体験を直接語りかける人たちが少なくなっている中、体験談を映像で紹介したり、防空壕の様子を模型で紹介したりして、当時の様子が分かるよう展示の仕方を工夫しています。

また代替品で作られた生活道具や、

国民の戦意高揚を後押しするようなおもちゃや絵本など、当時実際に使われていたものも資料として展示しています。多くは市民の皆さんから寄贈いただいたもので、四日市の人々の暮らしを伝えるものです。

私たちの住んでいる四日市にも戦争があったことを、人ごとではなく自分ごととして、特に若い人たちが、77年前の出来事と向き合い、「いま」できること、戦争と平和を考えるきっかけにしたいだければと思います。



令和3年度の展示風景

☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

新種のナシ 国指定天然記念物百周年

ナシの仲間には、果物の梨の原種であるヤマナシのほか、食用ではないマメナシ・ミチノクナシなどがあることをご存知ですか。そのうちマメナシは、東海三県のみで自生している植物で、三重県ではイヌナシと呼ばれています。

実はイヌナシは、本市で初めて発見され、日本植物学の父・牧野富太郎が明治41（1908）年に新種として発表し、大正11（1922）年には、国の天然記念物に指定されました。同様に、マメナシと栽培ナシの雑種であるアイナシも本市で発見され国の天然記念物となりました。

この2種の木には、春、桜が咲くこ

ろ、真っ白な5弁の花が咲き、秋になると、イヌナシには1cm程度、アイナシには2～3cm程度の実がなります。どちらの実も、皮は斑点のある黄褐色をしており、小さいながらもナシの仲間だと実感できます。

国指定天然記念物「東阿倉川イヌナシ自生地」と「西阿倉川アイナシ自生地」は海蔵地区にあります。この珍しい木をぜひご覧ください。



イヌナシの実

☎ 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873